

## 第3学年1組 国語科学習指導案

平成21年11月17日

益田市立益田東中学校

福原 裕之

### 1 単元名「古典を味わおう」 教材「漢詩二編」

### 2 単元の目標

- ・ 古典に親しみ、我が国の伝統文化について関心を深めるとともに、それぞれの課題に対して意欲的に取り組もうとする。（関心・意欲・態度）
- ・ 自分で考えたり調べたりして、現代語訳や感想をまとめることができる。（書くこと）
- ・ 古文や漢文をリズムよく音読し、情景や心情を理解することができる。（読むこと）
- ・ 歴史的仮名遣い、古文や漢文特有の語句・用法を理解することができる。

（言語についての知識・理解・技能）

### 3 学習の基盤（生徒観は省略）

近年、少子化や核家族化、あるいは情報化が著しく進み、人と人との“生”のコミュニケーションが少なくなってきた。また、何事もマニュアル等に依存しすぎて語彙もどんどん少なくなっているようである。当たり前のことだが、時代とともに我々を取り巻く生活環境は変わってきている。そのような変化の中で、生徒は昔ほど古典に触れる機会に恵まれず、その結果、古典学習を外国語の授業と同じようにとらえている者が多くなってきているように感じる。どこの国にもはるか昔から祖先らが育んできた多くの文化があり、今を生きる者はみなその恩恵を受けている。我々が祖先の使った言葉の意味やその言葉に込められた心情を理解し、古典の歌や物語を鑑賞し、その美学や面白さがわかっていくことこそ、古典を理解することであり、ひいては自分の心を豊かにしていくことである。

「万葉・古今・新古今」については、2年生で明治以降の短歌を学習してきたので、その予備知識を生かしたい。「おくのほそ道」では、俳句という表現への理解を深めるとともに、人生を旅になぞらえる芭蕉の人生観をとらえたい。「漢詩二編」は、日本文化にも深い影響を与えた中国の古典文学の学習である。日本と中国の古典作品とのかかわりは深く、大和・奈良時代から日本文化を築く礎石としての役割を果たし、文芸の世界では、その影響を受けなかった分野は無いと言っても過言ではない。その中でも唐詩は、平安時代の勅撰漢詩集編纂の原点となり、「古今和歌集」以降の和歌・随筆・物語などにもその血脈は受け継がれている。日本では、数ある漢詩の中でも唐詩、特に盛唐の詩が高く評価されてきた。その代表格に当たるのが、李白と杜甫で、ここではその二人の七言絶句と五言律詩を取り上げている。前学習教材の「おくのほそ道」にも影響を与えた二人の詩を学ぶことは、中国と日本の文化的なかわりを知るうえからも有意義である。

1年生で故事成語（矛盾）を、2年生で論語を学習し、毎年漢文学習をしてはいるものの、その実施時間はわずかである。古典文法を本格的に学習するのは上級学校へ進学してからなので、内容の理解には教科書中の脚注等を積極的に活用し、古文の世界への親しみを育みたい。さらに、一字一句に込められた意味の理解を通して言語感覚を磨き、漢詩の形式や特徴の理解を深めるとともに、その美しさや巧みな修辞、リズム感なども味わわせたい。

また、そこに描かれた情景を想像することから、作者の心情や詩のテーマについてもじっくり考えさせたい。その学習過程としては、本校の研究テーマである“学び合い”の小グループでの話し合い活動を積極的に取り入れたい。少人数でお互いの考えを交流させ、そしてそれをクラス全体で共有することにより、それぞれの読みがさらに深まるようにしていきたい。

4 単元の指導計画及び評価計画（全11時間）

時間	学 習 活 動	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第1次 1 2 3 4	<p><b>「万葉・古今・新古今」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三つの和歌集について、その内容・特色を知る。</li> <li>・それぞれの和歌を繰り返し音読し、和歌の意味を理解し優れた表現を味わう。</li> <li>・小グループごとに、選んだ歌についてのレポートを作り、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に音読に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌の特徴をとらえ、リズムや意味の切れ目に注意して音読できる。</li> <li>・和歌の情景を理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いや古文特有の語句・用法を理解できる。</li> </ul>
第2次 1 2 3 4	<p><b>「おくのほそ道」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解説を手掛かりにその内容を理解する。</li> <li>・「冒頭部」を読み、『おくのほそ道』や芭蕉について理解を深める。</li> <li>・「高館」の部分を読み、芭蕉の心情を味わう。</li> <li>・全体を繰り返し音読し、優れた表現やリズムを読み味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に音読に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口語訳や脚注などを参考にして内容をとらえている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いや古文特有の語句・用法を理解できる。</li> </ul>
第3次 1 2 3	<p><b>「漢詩二編」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形式や訓読の仕方を理解し、読み慣れる。</li> <li>・『黄鶴楼…』の内容を理解し、作者の心情をとらえる。 (本時2/3)</li> <li>・『春望』の内容を理解し、作者の心情をとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に音読に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の特徴（漢語的な表現や対句的表現等）やリズムを生かしながら音読している。</li> <li>・言葉を根拠としながら、詩の情景や作者の心情を理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文の形式やきまり等を理解できる。</li> </ul>

5 本時の学習

- 目標 ・漢詩の形式や漢文特有の表現などのリズムに注意して音読することができる。
- ・漢詩に描かれている情景や心情を読み味わうことができる。

○展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の範読（中国語）を聞く。</li> <li>○位置関係（地図）、作者について知る。</li> <li>○音読練習 個人→ペア（→全体）</li> <li>○起句・承句についてわからない語句を調べる。</li> <li>○転句・結句についてその情景をイメージし交流する。 ・ホワイトボードに絵で表現する。</li> <li>○作者の心情を想像する。</li> <li>○作者の心情を思い浮かべながら音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白文(拡大したもの)を提示する。</li> <li>地図や写真などを提示する。</li> <li>書き下し文を提示する。 語句のまとまりやリズムに注意して読むことを助言する。</li> <li>注釈にない語については、辞書で調べさせながら、適宜解説を加える。</li> <li>十分時間を確保し、自分の考えをもってグループでの検討に入れるようにする。</li> <li>「尽き(る)」「孤帆」の意味を確認し、長江の流れをずっと見ている李白の心情を考えるよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心を持ち意欲的に読もうとしている。(関心・意欲・態度)</li> <li>・自分で考えたり、友達と考えを交流させたりしている。(読むこと)</li> <li>・言葉を根拠としながら、漢詩に描かれた心情を読み取っている。(読むこと)</li> </ul>

○本時の具体的な評価

十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	努力を要すると判断される生徒の具体例
<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢詩の表現やリズムをよくとらえ、グループでの話し合い活動にも積極的に参加し、意味内容や作者の心情を理解して音読に生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢詩の表現やリズムをよくとらえ、意味内容や作者の心情を理解して音読に生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩の情景や作者の心情を理解できず、リズムよくすらすら音読することができない。</li> </ul>